

科目名	慢性看護学実習 I Chronic Nursing Practice I
授業形態	実習
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時限等	通年 応談
実施場所	医療法人財団三友会深川ギャザリアクリニック
単位数	4単位(1単位=45時間)
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga 阿部 吉樹 Abe Yoshiki
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	慢性病者の基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理についての理解を深め、治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策の実際について学習する。
他の授業科目との関連	
履修条件	慢性看護学CNS教育課程の受講者であること。
授業概要	慢性病者の医療、看護の実践経験をもつ看護師、医師および大学教員の指導のもと、地域社会で療養生活を営む慢性病者を支援する実習を行う。
キーワード	慢性病 (chronic disease)、専門看護師 (Certified Nurse Specialist)、 看護支援 (nursing support)
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会の場で、慢性疾患医療が実施されている医療施設において、慢性疾患医療の経験の豊富な医師および、高い専門性をもつ看護師の指導のもと、実習を行う。 2 慢性病者の状態を適切に評価するための方法を習得し、合理的判断を下すための思考過程について、医師、看護師との協議を通して理解を深める。 3 地域社会での治療過程にある、慢性病者を受け持ち、慢性病者およびその家族をの抱える状況についての包括的なアセスメントに基づく援助計画を立案する。 4 援助計画に基づくケアを実践する。 5 療養環境の整備のために、他職種や関係機関と連携し、計画、実施する。 6 各種健康診断やそのフォローアップの場における、説明や健康教育について理解し、指導者とともに、実施する。 7 つねに、援助計画の実施状況を振り返りながら、実習目標の達成に向けた実習計画の修正を行う。 8 実習での実践内容については、自ら課題を設定し、実習報告書を作成する。
学修時間の割り当て及び授業 外における学修方法	実習期間にとらわれることなく、自ら目指す専門領域の動向に関する情報収集に努め、学会、研修会などにも積極的に参加して知識を得るとともに人的交流を深めること。
成績評価方法	<p>評価方法と評価配分 実習内容・記録(50%)、ケースレポート(30%)、カンファレンスの発表内容(20%) 実習内容は、慢性看護学実習の評価表に基づいて評価する。学生と実習指導者の評価をもとに、教員と実習指導者の協議により最終評価を行う。</p> <p>評価基準 <ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会の場で、慢性疾患医療が実施されている医療機関での医学的評価・判断についての実際を理解することができる。 2 医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について理解することができる。 3 上記の1、2をもとに、地域社会で療養生活を営む慢性病者のおかれている状況を包括的にアセスメントできる。 4 上記のアセスメント内容をもとに、医師等と協議のうえ、慢性病者とその家族に対して必要な援助計画を立案できる。 5 立案した援助計画に基づき、慢性病者および家族への援助を実践することができる。 6 慢性病の予防や早期発見のための活動(職場における健康診断や市町村が実施する健康診断やそのフォローアップなど)についての実際を理解できる。 7 看護職者を含むケア提供者に対して、慢性病者とその家族の抱える問題についてのコンサルテーション活動の実際を理解できる。 8 慢性病者とその家族に必要なケアを円滑に提供するために、保健医療福祉に携わる人々の調整ができる。 9 慢性病者とその家族に対するケアを向上させるために、看護職者への教育的なかかわりができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～9を自発的な取り組み算より達成できる。 A 上記1～9を指導に従い優れた内容で達成できる。 B 上記1～9を指導に従い到達目標に達成できる。 C 上記1～9を指導に従い概ね達成できる。 D 上記1～9を指導に従い到達目標に達成できない。 課題が達成できていないと評価された場合には、課題の達成に至るまで実習期間を延長することも可能である。</p>
教材・参考文献・配布資料等	指定しない。随時参考資料を提示する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	